

科目名	博物館実習 (FD00D310)
英文科目名	Museum Work Training
担当教員名	徳澤啓一(とくさわけいいち), 小林秀司(こばやししゅうじ), 白石純(しらいしじゅん), 清水慶子(しみずけいこ), 高橋亮雄(たかはしあきお), 名取真人(なとりまさひと)
対象学年	3年
開講学期	通期
曜日時限	月曜日 4時限 / 月曜日 5時限
対象クラス	理学部(16~), バイオ・応用化学科(16~), 機械システム工学科(16~), 電気電子システム学科(16~), 情報工学科(16~), 知能機械工学科(16~), 生体医工学科(16~), 建築学科(16~), 生命医療工学科(16~), 総合情報学部(16~), 生物地球学部(16~), 教育学部(16~), 経営学部(16~)
単位数	3.0
授業形態	実験実習
授業内容	<p>1~6回 事前の指導 館園実習、実習館園、館務、博物館利用者の接遇、館園見学、見学館園について解説する。</p> <p>7~14回 館園見学 4館程度の館園見学を実施する。なお、希望者によっては、海外での館園見学を実施することがある。</p> <p>15回 中間まとめ 本実習の学習内容を復習しつつ、「実務実習」の準備学習を実施する。</p> <p>16~25回 実務実習 館種に応じた専門的・技術的な実務に関するものを行う。</p> <p>26~44回 館園実習 学内外の館園等の現場における業務に関するものを行う。</p> <p>45回 総括 本実習の学習内容を復習しつつ、「博物館学芸員」の就職事情等の最新事情を講義する。</p>
準備学習	<p>準備学習 初回の講義時には、必ずシラバスを熟読し、授業内容等を確認しておくこと(標準学習時間60分)。</p> <p>2回目以降 館園見学、実務実習、館園実習では、博物館学芸員課程担当教員に加えて、館園の学芸員、本学兼任教員、非常勤講師が指導にあたり、それぞれの指示に従って、準備学習を行うこと。準備学習に要する時間に関しては、実習内容を館園実習記録簿に記入し(標準学習時間60分)、事前配付資料を読んでおくこと(標準学習時間120分)を目安とする。</p>
講義目的	見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通し、多様な館種の実態や学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う。(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Mにもっとも強く関与)
達成目標	<p>1. 学内実習[見学実習(多様な館種の実態理解)、実務実習(資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得)、事前・事後指導(実習全体の指導、館園実習に関する指導)]</p> <p>2. 館園実習(博物館における実務体験)</p> <p>以上についての講義を行い、その理解を深める。</p>
キーワード	授業内容に記載
成績評価(合格基準60)	「館園実習簿」の記載(50%)及びレポート(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、博物館学芸員課程の最終段階である「博物館実習」において、履修生は、外部の博物館で館園実習を行うことになる。当然のことながら、館園実習では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員及び「館園実習」担当者の所見を重視することになる。
関連科目	博物館学芸員関連科目
教科書	新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 / 芙蓉書房出版 / ISBN9784829505519
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室(D2号館4階) 高橋亮雄研究室(B2号館1階) curator_ous@outlook.jp
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事

	前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館実習 (FD00N310)
英文科目名	Museum Work Training
担当教員名	徳澤啓一(とくさわけいいち), 高橋亮雄(たかはしあきお)
対象学年	3年
開講学期	通期
曜日時限	水曜日 4時限 / 水曜日 5時限
対象クラス	理学部(16~), バイオ・応用化学科(16~), 機械システム工学科(16~), 電気電子システム学科(16~), 情報工学科(16~), 知能機械工学科(16~), 生体医工学科(16~), 建築学科(16~), 生命医療工学科(16~), 総合情報学部(16~), 生物地球学部(16~), 教育学部(16~), 経営学部(16~)
単位数	3.0
授業形態	実験実習
授業内容	<p>1~6回 事前の指導 館園実習、実習館園、館務、博物館利用者の接遇、館園見学、見学館園について解説する。</p> <p>7~14回 館園見学 4館程度の館園見学を実施する。なお、希望者によっては、海外での館園見学を実施することがある。</p> <p>15回 中間まとめ 本実習の学習内容を復習しつつ、「実務実習」の準備学習を実施する。</p> <p>16~25回 実務実習 館種に応じた専門的・技術的な実務に関するものを行う。</p> <p>26~44回 館園実習 学内外の館園等の現場における業務に関するものを行う。</p> <p>45回 総括 本実習の学習内容を復習しつつ、「博物館学芸員」の就職事情等の最新事情を講義する。</p>
準備学習	<p>準備学習 初回の講義時には、必ずシラバスを熟読し、授業内容等を確認しておくこと(標準学習時間60分)。</p> <p>2回目以降 館園見学、実務実習、館園実習では、博物館学芸員課程担当教員に加えて、館園の学芸員、本学兼任教員、非常勤講師が指導にあたり、それぞれの指示に従って、準備学習を行うこと。準備学習に要する時間に関しては、実習内容を館園実習記録簿に記入し(標準学習時間60分)、事前配付資料を読んでおくこと(標準学習時間120分)を目安とする。</p>
講義目的	見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通し、多様な館種の実態や学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う。(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Mにもっとも強く関与)
達成目標	<p>1. 学内実習[見学実習(多様な館種の実態理解)、実務実習(資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得)、事前・事後指導(実習全体の指導、館園実習に関する指導)]</p> <p>2. 館園実習(博物館における実務体験)</p> <p>以上についての講義を行い、その理解を深める。</p>
キーワード	授業内容に記載
成績評価(合格基準60)	「館園実習簿」の記載(50%)及びレポート(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、博物館学芸員課程の最終段階である「博物館実習」において、履修生は、外部の博物館で館園実習を行うことになる。当然のことながら、館園実習では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員及び「館園実習」担当者の所見を重視することになる。
関連科目	博物館学芸員関連科目
教科書	新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 / 芙蓉書房出版 / ISBN9784829505519
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室(D2号館4階) 高橋亮雄研究室(B2号館1階) curator_ous@outlook.jp
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別な理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単

	元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館実習 (FD00Z310)
英文科目名	Museum Work Training
担当教員名	徳澤啓一(とくさわけいいち), 高橋亮雄(たかはしあきお), 酒井雅代*(さかいまさよ*), 三阪一徳*(みさかかずのり*), 内田恭司*(うちだやすし*), 廣橋淳*(ひろはしあつし*), 石井啓*(いしいけい*)
対象学年	3年
開講学期	通期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部(16~), バイオ・応用化学科(16~), 機械システム工学科(16~), 電気電子システム学科(16~), 情報工学科(16~), 知能機械工学科(16~), 生体医工学科(16~), 建築学科(16~), 生命医療工学科(16~), 総合情報学部(16~), 生物地球学部(16~), 教育学部(16~), 経営学部(16~)
単位数	3.0
授業形態	実験実習
授業内容	1~6回 事前の指導 館園実習、実習館園、館務、博物館利用者の接遇、館園見学、見学館園について解説する。  7~14回 館園見学 4館程度の館園見学を実施する。なお、希望者によっては、海外での館園見学を実施することがある。  15回 中間まとめ 本実習の学習内容を復習しつつ、「実務実習」の準備学習を実施する。  16~25回 実務実習 館種に応じた専門的・技術的な実務に関するものを行う。  26~44回 館園実習 学内外の館園等の現場における業務に関するものを行う。  45回 総括 本実習の学習内容を復習しつつ、「博物館学芸員」の就職事情等の最新事情を講義する。
準備学習	準備学習 初回の講義時には、必ずシラバスを熟読し、授業内容等を確認しておくこと(標準学習時間60分)。 2回目以降 館園見学、実務実習、館園実習では、博物館学芸員課程担当教員に加えて、館園の学芸員、本学兼任教員、非常勤講師が指導にあたり、それぞれの指示に従って、準備学習を行うこと。準備学習に要する時間に関しては、実習内容を館園実習記録簿に記入し(標準学習時間60分)、事前配付資料を読んでおくこと(標準学習時間120分)を目安とする。
講義目的	見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通し、多様な館種の実態や学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う。(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Mにもっとも強く関与)
達成目標	1. 学内実習[見学実習(多様な館種の実態理解)、実務実習(資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得)、事前・事後指導(実習全体の指導、館園実習に関する指導)] 2. 館園実習(博物館における実務体験) 以上についての講義を行い、その理解を深める。
キーワード	授業内容に記載
成績評価(合格基準60)	「館園実習簿」の記載(50%)及びレポート(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、博物館学芸員課程の最終段階である「博物館実習」において、履修生は、外部の博物館で館園実習を行うことになる。当然のことながら、館園実習では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員及び「館園実習」担当者の所見を重視することになる。
関連科目	博物館学芸員関連科目
教科書	新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 / 芙蓉書房出版 / ISBN9784829505519
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室(D2号館4階) 高橋亮雄研究室(B2号館1階) curator_ous@outlook.jp
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間

	終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館概論【月1水1】(FD01A110)
英文科目名	Introduction to Museum
担当教員名	徳澤啓一(とくさわけいいち), 谷一尚*(たにいちたかし*)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	応用数学科, 化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。 (全教員)
2回	博物館学の目的・方法・構成(1) 博物館学の目的・方法・構成を説明する。 (全教員)
3回	博物館学の目的・方法・構成(2) 博物館学史を説明する。 (全教員)
4回	博物館の定義(1) 定義(類縁機関との違いを含む)を説明する。 (全教員)
5回	博物館の定義(2) 種類(館種、設置者別、法的区分等)を説明する。 (全教員)
6回	博物館の定義(3) 目的、機能を説明する。 (全教員)
7回	博物館の歴史と現状(1) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
8回	博物館の歴史と現状(2) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
9回	博物館の歴史と現状(3) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
10回	博物館の歴史と現状(4) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
11回	博物館の歴史と現状(5) 我が国及び諸外国の博物館の現状 を説明する。 (全教員)
12回	博物館の歴史と現状(6) 我が国及び諸外国の博物館の現状 を説明する。 (全教員)
13回	博物館の歴史と現状(7) 学芸員の役割(定義、役割、実態)を説明する。 (全教員)
14回	博物館の歴史と現状(8) 博物館関係法令を説明する。 (全教員)
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館に関する基礎的知識を獲得する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を塾覧しておくこと(標準学習)

	時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
9回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
10回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
11回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
12回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
13回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
14回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-1にもっとも強く関与)
達成目標	1) 博物館学の目的・方法・構成(博物館学の目的・方法・構成、博物館学史) 2) 博物館の定義(類縁機関との違いを含む)、種類(館種、設置者別、的区分等)、目的、機能 3) 博物館の歴史と現状、我が国及び諸外国の博物館の歴史、我が国及び諸外国の博物館の現状、学芸員の役割(定義、役割、実態)、博物館関係法令 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価(合格基準60)	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学/全国大学博物館学講座協議会西日本部会編/芙蓉書房出版/ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail(curator_ous@outlook.jp)によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館概論【月2水2】(FD01B110)
英文科目名	Introduction to Museum
担当教員名	徳澤啓一(とくさわけいいち), 花谷浩*(はなたにひろし*)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	応用数学科, 化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。 (全教員)
2回	博物館学の目的・方法・構成(1) 博物館学の目的・方法・構成を説明する。 (全教員)
3回	博物館学の目的・方法・構成(2) 博物館学史を説明する。 (全教員)
4回	博物館の定義(1) 定義(類縁機関との違いを含む)を説明する。 (全教員)
5回	博物館の定義(2) 種類(館種、設置者別、法的区分等)を説明する。 (全教員)
6回	博物館の定義(3) 目的、機能を説明する。 (全教員)
7回	博物館の歴史と現状(1) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
8回	博物館の歴史と現状(2) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
9回	博物館の歴史と現状(3) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
10回	博物館の歴史と現状(4) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
11回	博物館の歴史と現状(5) 我が国及び諸外国の博物館の現状 を説明する。 (全教員)
12回	博物館の歴史と現状(6) 我が国及び諸外国の博物館の現状 を説明する。 (全教員)
13回	博物館の歴史と現状(7) 学芸員の役割(定義、役割、実態)を説明する。 (全教員)
14回	博物館の歴史と現状(8) 博物館関係法令を説明する。 (全教員)
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館に関する基礎的知識を獲得する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を塾覧しておくこと(標準学習)

	時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
9回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
10回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
11回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
12回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
13回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
14回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-1にもっとも強く関与)
達成目標	1) 博物館学の目的・方法・構成(博物館学の目的・方法・構成、博物館学史) 2) 博物館の定義(類縁機関との違いを含む)、種類(館種、設置者別、的区分等)、目的、機能 3) 博物館の歴史と現状、我が国及び諸外国の博物館の歴史、我が国及び諸外国の博物館の現状、学芸員の役割(定義、役割、実態)、博物館関係法令 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価(合格基準60)	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学/全国大学博物館学講座協議会西日本部会編/芙蓉書房出版/ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail(curator_ous@outlook.jp)によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	生涯学習概論【月2水2】(FD01B310)
英文科目名	Studies of Life-long Learning
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	3年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義概要と受講要領について理解を図る。
2回	生涯学習の意義と特質。社会の変化に伴う教育観・学習観の基本的な流れを中心に理解を図る。
3回	生涯教育論・生涯学習論の生成と展開(1)。諸外国における生涯学習理念の変遷を中心に理解を図る。
4回	生涯教育論・生涯学習論の生成と展開(2)。国内における生涯学習理念の変遷を中心に理解を図る。
5回	生涯学習社会構築の理念と構想。学習需要の多様化とのかかわりから理解を図る。
6回	生涯学習の振興に関わる法制・行政・関連施策の動向(1)。1970～80年代を中心に理解を図る。
7回	生涯学習の振興に関わる法制・行政・関連施策の動向(2)。1990年代以降を中心に理解を図る。
8回	生涯学習のまちづくり施策の展開。学習機会の多様化と拡充を推進する施策を中心に理解を図る。
9回	生涯学習事業計画の策定と社会教育行政。生涯学習を支援する事業の計画の策定に係る基本的な考え方について理解を図る。
10回	生涯学習と教育・学習諸領域間の関連(1)。学校教育との連携を中心に理解を図る。
11回	生涯学習と教育・学習諸領域間の関連(2)。家庭教育、地域の教育、職業能力向上の支援を中心に理解を図る。
12回	生涯学習・社会教育施設等の管理と運営に関する基本的な考え方について理解を図る。
13回	生涯学習・社会教育における支援者・指導者の責務と基本的な役割について理解を図る。
14回	生涯学習の内容・方法・形態(学習情報の提供と学習相談を含む)の基本的な考え方について理解を図る。
15回	生涯学習成果の評価・認証と活用に関する基本的な考え方について理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	生涯学習に関する知識について、博物館学芸員に必要とされる範囲や水準の見通しをもつとともに、教科書及びシラバスに目を通し、学習の過程を把握しておくこと(標準学習時間80分)。
2回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、学習支援の責任の範囲を中心に、生涯学習論の概念の変化を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
3回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、ユネスコとOECDの動向を中心に生涯学習に関する重要な語句や概念を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
4回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、社会教育審議会と中央教育審議会を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
5回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、学習社会の定義を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
6回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、1970年代と80年代の諸諮問機関の答申・報告を手がかりに重要な語句や概念を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
7回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、1990年以降の諸諮問機関の答申・報告を手がかりに重要な語句や概念を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
8回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、まちづくり事業の複数の事例を具体的に取り上げて主な特質を整理しておくこと(標準学習時間120分)。
9回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、生涯学

	習の理念を事業計画にどのように生かすべきかについて主な留意事項を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
10回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、学社連携・学社融合を中心に主に博物館を事例に重要な語句や概念を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
11回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、家庭や地域における生涯学習施策の展開過程を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
12回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、生涯学習の理念を社会教育施設の運営にどのように生かすべきかについて、博物館を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
13回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、生涯学習の理念を社会教育専門職の職責や役割にどのように生かすべきかについて、学芸員を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
14回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、各自の専攻分野に関する学習支援の方法・形態に生涯学習の理念をどのように生かすべきかについて、博物館を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
15回	教科書と配付資料の全体に目を通し、重要な語句や概念を中心にこれまでの学習内容を整理しておくこと（標準学習時間180分）。
16回	これまでの学習全体を振り返り、到達目標を再確認して自らの課題の明確化と克服に努めること（標準学習時間80分）。

講義目的	博物館法施行規則第1条に基づき、生涯学習及び社会教育の本質と意義、生涯学習の振興に関わる法制・行政・施策、教育・学習の諸領域間の関連、専門的職員の基本的役割、学習機会の拡充など広く学習支援に関わる基本的な原理・原則について講義し、社会教育の専門的職員に必要な生涯学習に関する基礎的知見を修得させることを通して、学習機会の拡充を含め広く学習支援を行える社会教育の専門的職員としての基礎的素養を培う。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Kにもっと強く関与)
達成目標	学習需要の多様化を背景とする生涯学習の意義と基本的特質について説明できること。 生涯学習社会の構築に関わる生涯学習振興施策の意義と基本的課題について説明できること。 生涯学習・社会教育の法制・制度・行政の基本的な役割とその原則について説明できること。 生涯学習における学習課題とその支援の基本的な原則について、主として博物館を例に、各自の専攻分野の知識を題材として説明できること。
キーワード	生涯学習体系、生涯教育、社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員、生涯学習振興法、学習プログラム、リカレント教育、自己主導的学習
成績評価（合格基準60	平素の学習状況（30～40%、主に提出物による）と最終評価試験（60～70%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、この比率は、受講者の学習状況により見直すことがある。
関連科目	博物館学芸員関連科目のうち1～2年次開講のものをすべて修得していることが望ましい。 教職課程を同時に履修している者は、博物館と学校との連携に係る学修の振り返りについて、教職履修カルテの記述に反映することが望ましい。
教科書	生涯学習社会の構築 / 佐々木正治（編著） / 福村出版 / ISBN978-4571101380
参考書	現代教育の理論と実践 / 曾我雅比呂・皿田琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会（編） / 芙蓉書房出版 / ISBN978-4829505519 その他、講義の際に適宜提示し、必要に応じて指示、解説等を行う。
連絡先	B2号館（旧13号館）3階皿田研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	広く人々の学習を支援するための公的資格の一つの取得をめざしていることを深く自覚し、高い意欲をもって学業に取り組むことが望ましい。 勤務を希望している地域の生涯学習・社会教育関連施策や、地域の博物館における学びの支援の事例を中心に、日ごろから新聞に目を通しておくこと。 専攻分野に関する学びの支援を中心に、幅広く読書を励行することが望ましい。 指導計画は受講状況により見直すことがある。講義形態を基本とするが、学習状況によってはアクティブラーニングを加味することがある。 指導計画は受講状況により変更することがある。講義形態を基本とするが、学習状況によってはアクティブラーニングを加味することがある。 連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 授業で課された提出物はすべて点検し、必要に応じて添削する。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。
試験実施	実施する

科目名	博物館資料保存論【月3水3】(FD01C210)
英文科目名	Museum Object Conservation
担当教員名	徳澤啓一(とくさわけいいち)
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。
2回	博物館における資料保存の意義を説明する。
3回	資料の保全(育成を含む)(1) 資料の状態調査・現状把握を説明する。
4回	資料の保全(育成を含む)(2) 資料の修復・修理、資料の梱包と輸送を説明する。
5回	博物館資料の保存環境(1) 資料保存の諸条件とその影響(温湿度)を説明する。
6回	博物館資料の保存環境(2) 資料保存の諸条件とその影響(光)を説明する。
7回	博物館資料の保存環境(3) 資料保存の諸条件とその影響(振動)を説明する。
8回	博物館資料の保存環境(4) 資料保存の諸条件とその影響(大気等)を説明する。
9回	博物館資料の保存環境(5) 生物被害とIPM(総合的有害生物管理)を説明する。
10回	博物館資料の保存環境(6) 災害の防止と対策(火災、地震、水害、盗難等)を説明する。
11回	博物館資料の保存環境(7) 伝統的保存方法、収蔵、展示等の保存環境を説明する。
12回	環境保護と博物館の役割(1) 地域資源の保存と活用(エコミュージアム等)を説明する。
13回	環境保護と博物館の役割(2) 文化財の保存と活用(景観、歴史的環境を含む)を説明する。
14回	環境保護と博物館の役割(3) 自然環境の保護(生物多様性・種の保存を含む)を説明する。
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館の資料保存に関する基礎的知識を獲得する。

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を熟読しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
9回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
10回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
11回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
12回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
13回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
14回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-3にもっとも強く関与)
達成目標	1) 博物館における資料保存の意義 2) 資料の保全(育成を含む)(資料の状態調査・現状把握、資料の修復・修理、資料の梱包と輸送) 3) 博物館資料の保存環境(資料保存の諸条件とその影響(温湿度、光、振動、大気等)、生物被害とIPM(総合的有害生物管理)、災害の防止と対策(火災、地震、水害、盗難等)、伝統的保存方法、収蔵、展示等の保存環境) 4) 環境保護と博物館の役割(地域資源の保存と活用(エコミュージアム等)、文化財の保存と活用(景観、歴史的環境を含む)、自然環境の保護(生物多様性・種の保存を含む)) 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価(合格基準60)	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館実習」を行うことになる。当然のことながら、「館実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学/全国大学博物館学講座協議会西日本部会編/芙蓉書房出版/ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail(curator_ous@outlook.jp)によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	自然史A【火3金3】(FD01H110)
英文科目名	Natural History A
担当教員名	高橋亮雄(たかはしあきお)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	理学部(16~), バイオ・応用化学科(16~), 機械システム工学科(16~), 電気電子システム学科(16~), 情報工学科(16~), 知能機械工学科(16~), 生体医工学科(16~), 建築学科(16~), 生命医療工学科(16~), 総合情報学部(16~), 生物地球学部(16~), 教育学部(16~), 経営学部(16~)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：本講義の概要と目標を説明する。
2回	地層から読み解くことのできる過去の情報について解説する。
3回	地形図および地質図の読み方と地質年代について解説する。
4回	日本の地質構造とプレートテクトニクスについて概説する。
5回	古生代の日本の地形と生物相について概説する。
6回	中生代の日本の地形と古環境について概説する。
7回	日本の中生界から知られる脊椎動物化石について解説する。
8回	古第三紀の日本の古地理と古環境および陸生生物相について解説する。
9回	日本海がどのようにして成立したかについて解説する。
10回	新第三紀から第四紀中期更新世にかけての日本の古地理と陸生動物相について解説する。
11回	最終氷期に成立した大陸との陸橋と動物の分散・分化について解説する。
12回	現在の琉球列島の地理と生物相について概説する。
13回	琉球列島の第四紀動物地理について概説する。
14回	琉球列島の生物相の起源に関する最近の仮説について概説する。
15回	先史時代から現代にいたる日本の自然環境の変化などについて概説する。
16回	これまでの講義内容を振り返り、最後に最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】このシラバスをよく読み、授業内容の確認をするとともに高等学校の教科書等の地層・地質・化石に関する項目について読んでおくこと(標準学習時間60分)
2回	【予習】これまでに自身が自然史博物館の展示などを通して学んできた代表的な化石生物について学習しておくこと(標準学習時間60分) 【復習】地層からどのような情報が得られるか、説明できるよう復習すること(標準学習時間120分)
3回	【予習】生物化石のもたらす情報の強みと弱みについて、理解を深めておくこと(標準学習時間60分) 【復習】理大周辺を含め岡山市の地理および地質について、地形図および地質図上で確認できるようにしておくこと(標準学習時間120分)
4回	【予習】プレートテクトニクスについて模式図を用いて説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分) 【復習】プレートテクトニクスに関する配付プリントの図表類について理解を深めておくこと(標準学習時間120分)
5回	【予習】古生代の日本を構成する地塊について配布プリントをもとに予習しておくこと(標準学習時間60分) 【復習】日本の古生界から知られる代表的な化石生物について復習すること(標準学習時間120分)
6回	【予習】中生代の日本周辺の古地理に関する配布プリントを読んでおくこと(標準学習時間60分) 【復習】中生代の日本の地質と代表的な示準化石について復習すること(標準学習時間120分)
7回	【予習】日本の中生界から知られる代表的な陸生脊椎動物について調べておくこと(標準学習時間60分) 【復習】中生代の日本産の脊椎動物化石とその意義について説明できるよう、復習しておくこと(標準学習時間120分)
8回	【予習】日本の古第三系より知られている生物化石について事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 【復習】古第三紀の日本周辺の古地理について事前に配布したプリントをよく読んで復習すること(標準学習時間120分)

9回	【予習】日本海域の海底地形図を熟覧しておくこと（標準学習時間60分） 【復習】日本海の形成史について説明できるよう復習すること（標準学習時間120分）
10回	【予習】新第三系から第四紀中部更新統にかけてより知られている代表的な生物化石について調べておくこと（標準学習時間60分） 【復習】新第三紀から中期更新世にかけての日本の古地理と代表的な生物化石について説明できるよう復習を行うこと（標準学習時間120分）
11回	【予習】日本に固有分布する現生陸生生物について、参考書等で調べておくこと（標準学習時間60分） 【復習】日本の上部更新統から知られている脊椎動物化石について復習すること（標準学習時間120分）
12回	【予習】琉球列島の代表的な現生陸生脊椎動物について参考書等で調べておくこと（標準学習時間60分） 【復習】琉球列島の陸生生物相の特徴について説明できるよう復習すること（標準学習時間120分）
13回	【予習】配布プリントを参照し、琉球列島の陸生動物を対象とした動物地理学的研究例について予習しておくこと（標準学習時間60分） 【復習】代表的な琉球列島に固有の脊椎動物とその近縁種について説明できるよう復習すること（標準学習時間120分）
14回	【予習】琉球列島の生物相の起源について、配布プリントを用いて事前学習しておくこと（標準学習時間60分） 【復習】琉球列島の生物相の起源について説明できるよう復習すること（標準学習時間120分）
15回	【予習】近・現代における生物の絶滅および外来種問題について、書籍やインターネット等で事前に予習しておくこと（標準学習時間60分） 【復習】完新世の自然環境の変化について配布プリントや参考書等をもとに復習すること（標準学習時間60分）
16回	【予習】これまでの講義内容について振り返り学習すること（標準学習時間60分） 【復習】理解が不十分であった点について講義ノートや配布プリント等をもとに復習すること（標準学習時間120分）

講義目的	日本の地史について理解を深めるために、地質、層序、化石および現生生物の進化や動物地理などを中心に概説し、自然史に関する基礎的な知識の修得をめざす。なお、本科目は博物館学芸員関連科目のひとつに位置づけられており、3年時に博物館実習を履修するためには当該科目の単位修得が不可欠である。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針N-4にもっとも強く関与）
達成目標	1) 日本の古地理変遷について説明できる（N-4）、2) 日本から知られている重要な生物化石について適切に理解している（N-3および4）、3) 国内で見られる代表的な生物の分布と多様化について説明できる（N-3）、4) 自然史博物館で展示されている古生物学および地史学系の展示を適切に理解し、説明できる（N-4）。2) 自然環境と持続可能な発展について説明できる（N-3および4）。
キーワード	地史、生物地理、生物、化石、地層
成績評価（合格基準60）	提出課題（10%）と最終評価試験（90%）により評価する。
関連科目	自然史B、博物館実習
教科書	講義でプリントを配付する。
参考書	日本の地形1総説/太田陽子ほか（2001）/東京大学出版会/ISBN:978-4130647113：日本列島の誕生/平朝彦（1990）/岩波書店/ISBN:978-4004301486：動物地理の自然史/増田隆一・阿部永（2005）/北海道大学出版会/ISBN:978-4832981010：美ら海の自然史/琉球大学21世紀COEプログラム編集委員会（2006）/東海大学出版会/ISBN:978-4486017318。
連絡先	研究室（B2号館1階）
注意・備考	1) 学習準備時間数が示してあるが、他の履修科目等への時間配分も勘案して心身の健康を害することのないように、適宜、各自調整すること。 2) この講義は本学の博物館学芸員関連科目のひとつに位置付けられるため、講義の一環として館園見学を実施することがある。 3) 講義資料は講義中に適宜、配布する。なお、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。 4) 講義中の録音/録画/撮影および着帽は原則として認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。 5) 館園見学を実施した場合、レポートは博物館に関する課題を提示する。提出された課題について、講義中に全体の概要について説明し、博物館実習履修時に受け入れ先の検討を行う際の資料として活用してもらう。
試験実施	実施する

科目名	博物館概論【火3金3】(FD01H120)
英文科目名	Introduction to Museum
担当教員名	徳澤啓一(とくさわけいいち), 富加見泰彦*(ふかみやすひこ*)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。 (全教員)
2回	博物館学の目的・方法・構成(1) 博物館学の目的・方法・構成を説明する。 (全教員)
3回	博物館学の目的・方法・構成(2) 博物館学史を説明する。 (全教員)
4回	博物館の定義(1) 定義(類縁機関との違いを含む)を説明する。 (全教員)
5回	博物館の定義(2) 種類(館種、設置者別、法的区分等)を説明する。 (全教員)
6回	博物館の定義(3) 目的、機能を説明する。 (全教員)
7回	博物館の歴史と現状(1) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
8回	博物館の歴史と現状(2) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
9回	博物館の歴史と現状(3) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
10回	博物館の歴史と現状(4) 我が国及び諸外国の博物館の歴史 を説明する。 (全教員)
11回	博物館の歴史と現状(5) 我が国及び諸外国の博物館の現状 を説明する。 (全教員)
12回	博物館の歴史と現状(6) 我が国及び諸外国の博物館の現状 を説明する。 (全教員)
13回	博物館の歴史と現状(7) 学芸員の役割(定義、役割、実態)を説明する。 (全教員)
14回	博物館の歴史と現状(8) 博物館関係法令を説明する。 (全教員)
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館に関する基礎的知識を獲得する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を塾覧しておくこと(標準学習時間60分)。

2回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
3回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
4回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
5回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
6回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
7回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
8回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
9回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
10回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
11回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
12回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
13回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
14回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-1にもっとも強く関与）
達成目標	1) 博物館学の目的・方法・構成（博物館学の目的・方法・構成、博物館学史） 2) 博物館の定義（類縁機関との違いを含む）、種類（館種、設置者別、的区分等）、目的、機能 3) 博物館の歴史と現状、我が国及び諸外国の博物館の歴史、我が国及び諸外国の博物館の現状、学芸員の役割（定義、役割、実態）、博物館関係法令 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価（合格基準60	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 / 芙蓉書房出版 / ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	文化史 B (FD01Z110)
英文科目名	Cultural History B
担当教員名	俵寛司* (たわらかんじ*), 平野裕子* (ひらのゆうこ*)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部(16~), バイオ・応用化学科(16~), 機械システム工学科(16~), 電気電子システム学科(16~), 情報工学科(16~), 知能機械工学科(16~), 生体医工学科(16~), 建築学科(16~), 生命医療工学科(16~), 総合情報学部(16~), 生物地球学部(16~), 教育学部(16~), 経営学部(16~)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 世界遺産条約と文化財保護法を説明する。 (全教員)
2回	文化遺産と自然遺産 日本(1)を説明する。 (全教員)
3回	文化遺産と自然遺産 日本(2)を説明する。 (全教員)
4回	文化遺産と自然遺産 日本(3)を説明する。 (全教員)
5回	文化遺産と自然遺産 東南アジア(1)を説明する。 (全教員)
6回	文化遺産と自然遺産 東南アジア(2)を説明する。 (全教員)
7回	文化遺産と自然遺産 東南アジア(3)を説明する。 (全教員)
8回	日本と東南アジアの人文的景観(まとめ)を説明する。 (全教員)
9回	無形遺産条約と文化財保護法を説明する。 (全教員)
10回	文化遺産と自然遺産 中国(1)を説明する。 (全教員)
11回	文化遺産と自然遺産 中国(2)を説明する。 (全教員)
12回	文化遺産と自然遺産 中国(3)を説明する。 (全教員)
13回	文化遺産と自然遺産 北東アジア(1)を説明する。 (全教員)
14回	文化遺産と自然遺産 北東アジア(2)を説明する。 (全教員)
15回	中国と北東アジアの人文的景観(まとめ)を説明する。 (全教員)

回数	準備学習

1回	世界遺産条約と文化財保護法に関する調べ学習をしておくこと（標準学習時間60分）。
2回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
3回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
4回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
5回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
6回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
7回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
8回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと（標準学習時間180分）。
9回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
10回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
11回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
12回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
13回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
14回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	<p>経済成長が進展するアジア。これらの国々では、グローバル化の中で、生活文化の多様性が失われ、そこで培われた地域の景観も失われつつある。とりわけ、経済成長をけん引する都市部において、本来の自然や伝統的建造物は、コンクリートやアスファルト等が多くを占める都市的景観に置き換わりつつある。次世代を担う若者のファッションやカルチャーは、テレビやインターネットを通じて単相化しつつある。そうした中で、本来の伝統的な人々の暮らしとそこにあった景観を見つめ直すことがきわめて重要になっている。</p> <p>本講義では、アジア各地の伝統的な生活、習慣、文化について、世界文化遺産、世界自然遺産、世界無形遺産等の紹介をつうじて、アジアの生活文化の多様性と日本文化の特質について理解を深めていく。</p> <p>（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針N-1にもっとも強く関与）</p>
達成目標	<p>1) 暮らしの中で培われた生活文化が多様性に満ちたものであることを理解する。</p> <p>2) 隣り合う中国、北東アジア、東南アジアとの比較を通じて、日本の文化的景観の特質を理解する。</p> <p>3) 生活文化とその景観の重要性を文化財保護の視点でどのように取り込まれているかを理解する。</p> <p>以上の項目について、理解を深めることを目標とする。</p>
キーワード	授業内容に記載。
成績評価（合格基準60	提出課題40%、2回の小テスト60%によって、成績を評価する。得点率60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	講義中にプリントを配付する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間

	終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館資料保存論 (FD01Z210)
英文科目名	Museum Object Conservation
担当教員名	内川隆志* (うちかわたかし*)
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。
2回	博物館における資料保存の意義を説明する。
3回	資料の保全(育成を含む)(1) 資料の状態調査・現状把握を説明する。
4回	資料の保全(育成を含む)(2) 資料の修復・修理、資料の梱包と輸送を説明する。
5回	博物館資料の保存環境(1) 資料保存の諸条件とその影響(温湿度)を説明する。
6回	博物館資料の保存環境(2) 資料保存の諸条件とその影響(光)を説明する。
7回	博物館資料の保存環境(3) 資料保存の諸条件とその影響(振動)を説明する。
8回	博物館資料の保存環境(4) 資料保存の諸条件とその影響(大気等)を説明する。
9回	博物館資料の保存環境(5) 生物被害とIPM(総合的有害生物管理)を説明する。
10回	博物館資料の保存環境(6) 災害の防止と対策(火災、地震、水害、盗難等)を説明する。
11回	博物館資料の保存環境(7) 伝統的保存方法、収蔵、展示等の保存環境を説明する。
12回	環境保護と博物館の役割(1) 地域資源の保存と活用(エコミュージアム等)を説明する。
13回	環境保護と博物館の役割(2) 文化財の保存と活用(景観、歴史的環境を含む)を説明する。
14回	環境保護と博物館の役割(3) 自然環境の保護(生物多様性・種の保存を含む)を説明する。
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館の資料保存に関する基礎的知識を獲得する。

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を熟読しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
9回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
10回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
11回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
12回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
13回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
14回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-3にもっとも強く関与)
達成目標	1) 博物館における資料保存の意義 2) 資料の保全(育成を含む)(資料の状態調査・現状把握、資料の修復・修理、資料の梱包と輸送) 3) 博物館資料の保存環境(資料保存の諸条件とその影響(温湿度、光、振動、大気等)、生物被害とIPM(総合的有害生物管理)、災害の防止と対策(火災、地震、水害、盗難等)、伝統的保存方法、収蔵、展示等の保存環境) 4) 環境保護と博物館の役割(地域資源の保存と活用(エコミュージアム等)、文化財の保存と活用(景観、歴史的環境を含む)、自然環境の保護(生物多様性・種の保存を含む)) 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価(合格基準60)	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学/全国大学博物館学講座協議会西日本部会編/芙蓉書房出版/ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail(curator_ous@outlook.jp)によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館資料論【月1水1】(FD03A110)
英文科目名	Museum Object
担当教員名	高橋亮雄(たかはしあきお)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。
2回	博物館における調査研究活動(1) 調査研究活動の意義と内容(博物館資料に関する研究、資料保存に関する研究博物館に関する研究等)を説明する。
3回	博物館における調査研究活動(2) 調査研究活動の意義と内容(調査研究成果の還元)を説明する。
4回	博物館資料の概念(1) 資料の意義を説明する。
5回	博物館資料の概念(2) 資料の種類を説明する。
6回	博物館資料の概念(3) 資料の種類を説明する。
7回	博物館資料の概念(4) 資料化の過程を説明する。
8回	博物館資料の収集・整理・活用(1) 収集理念と方法を説明する。
9回	博物館資料の収集・整理・活用(2) 収集理念と方法を説明する。
10回	博物館資料の収集・整理・活用(3) 情報の記録を説明する。
11回	博物館資料の収集・整理・活用(4) 収集の倫理・法規を説明する。
12回	博物館資料の収集・整理・活用(5) 受入手続き・登録等を説明する。
13回	博物館資料の収集・整理・活用(6) 資料の分類・整理(目録作成を含む)を説明する。
14回	博物館資料の収集・整理・活用(7) 資料公開の理念と方法(アクセス権、特別利用等を含む)を説明する。
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館の資料に関する基礎的知識を獲得する。

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を塾覧しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
9回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
10回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
11回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
12回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
13回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
14回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。

15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと(標準学習時間180分)。
講義目的	博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-4にもっとも強く関与)
達成目標	1) 博物館における調査研究活動[調査研究活動の意義と内容(博物館資料に関する研究、資料保存に関する研究、博物館に関する研究等)、調査研究成果の還元] 2) 博物館資料の概念[資料の意義、資料の種類、資料化の過程] 3) 博物館資料の収集・整理・活用[収集理念と方法(情報の記録、収集の倫理・法規、受入手続き・登録等)、資料の分類・整理(目録作成を含む)、資料公開の理念と方法(アクセス権、特別利用等を含む)] 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価(合格基準60)	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学/全国大学博物館学講座協議会西日本部会編/芙蓉書房出版/ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	生涯学習概論【月1水1】(FD03A310)
英文科目名	Studies of Life-long Learning
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	3年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義概要と受講要領について理解を図る。
2回	生涯学習の意義と特質。社会の変化に伴う教育観・学習観の基本的な流れを中心に理解を図る。
3回	生涯教育論・生涯学習論の生成と展開(1)。諸外国における生涯学習理念の変遷を中心に理解を図る。
4回	生涯教育論・生涯学習論の生成と展開(2)。国内における生涯学習理念の変遷を中心に理解を図る。
5回	生涯学習社会構築の理念と構想。学習需要の多様化とのかかわりから理解を図る。
6回	生涯学習の振興に関わる法制・行政・関連施策の動向(1)。1970～80年代を中心に理解を図る。
7回	生涯学習の振興に関わる法制・行政・関連施策の動向(2)。1990年代以降を中心に理解を図る。
8回	生涯学習のまちづくり施策の展開。学習機会の多様化と拡充を推進する施策を中心に理解を図る。
9回	生涯学習事業計画の策定と社会教育行政。生涯学習を支援する事業の計画の策定に係る基本的な考え方について理解を図る。
10回	生涯学習と教育・学習諸領域間の関連(1)。学校教育との連携を中心に理解を図る。
11回	生涯学習と教育・学習諸領域間の関連(2)。家庭教育、地域の教育、職業能力向上の支援を中心に理解を図る。
12回	生涯学習・社会教育施設等の管理と運営に関する基本的な考え方について理解を図る。
13回	生涯学習・社会教育における支援者・指導者の責務と基本的な役割について理解を図る。
14回	生涯学習の内容・方法・形態(学習情報の提供と学習相談を含む)の基本的な考え方について理解を図る。
15回	生涯学習成果の評価・認証と活用に関する基本的な考え方について理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	生涯学習に関する知識について、博物館学芸員に必要とされる範囲や水準の見通しをもつとともに、教科書及びシラバスに目を通し、学習の過程を把握しておくこと(標準学習時間80分)。
2回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、学習支援の責任の範囲を中心に、生涯学習論の概念の変化を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
3回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、ユネスコとOECDの動向を中心に生涯学習に関する重要な語句や概念を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
4回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、社会教育審議会と中央教育審議会を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
5回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、学習社会の定義を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
6回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、1970年代と80年代の諸諮問機関の答申・報告を手がかりに重要な語句や概念を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
7回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、1990年以降の諸諮問機関の答申・報告を手がかりに重要な語句や概念を整理しておくこと(標準学習時間100分)。
8回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、まちづくり事業の複数の事例を具体的に取り上げて主な特質を整理しておくこと(標準学習時間120分)。
9回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、生涯学

	習の理念を事業計画にどのように生かすべきかについて主な留意事項を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
10回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、学社連携・学社融合を中心に主に博物館を事例に重要な語句や概念を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
11回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、家庭や地域における生涯学習施策の展開過程を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
12回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、生涯学習の理念を社会教育施設の運営にどのように生かすべきかについて、博物館を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
13回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、生涯学習の理念を社会教育専門職の職責や役割にどのように生かすべきかについて、学芸員を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
14回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通して大要を把握し、所定の課題に取り組むとともに、各自の専攻分野に関する学習支援の方法・形態に生涯学習の理念をどのように生かすべきかについて、博物館を中心に重要な語句や概念を整理しておくこと（標準学習時間100分）。
15回	教科書と配付資料の全体に目を通し、重要な語句や概念を中心にこれまでの学習内容を整理しておくこと（標準学習時間180分）。
16回	これまでの学習全体を振り返り、到達目標を再確認して自らの課題の明確化と克服に努めること（標準学習時間80分）。

講義目的	博物館法施行規則第1条に基づき、生涯学習及び社会教育の本質と意義、生涯学習の振興に関わる法制・行政・施策、教育・学習の諸領域間の関連、専門的職員の基本的役割、学習機会の拡充など広く学習支援に関わる基本的な原理・原則について講義し、社会教育の専門的職員に必要な生涯学習に関する基礎的知見を修得させることを通して、学習機会の拡充を含め広く学習支援を行える社会教育の専門的職員としての基礎的素養を培う。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Kにもっと強く関与)
達成目標	学習需要の多様化を背景とする生涯学習の意義と基本的特質について説明できること。 生涯学習社会の構築に関わる生涯学習振興施策の意義と基本的課題について説明できること。 生涯学習・社会教育の法制・制度・行政の基本的な役割とその原則について説明できること。 生涯学習における学習課題とその支援の基本的な原則について、主として博物館を例に、各自の専攻分野の知識を題材として説明できること。
キーワード	生涯学習体系、生涯教育、社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員、生涯学習振興法、学習プログラム、リカレント教育、自己主導的学習
成績評価（合格基準60	平素の学習状況（30～40%、主に提出物による）と最終評価試験（60～70%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、この比率は、受講者の学習状況により見直すことがある。
関連科目	博物館学芸員関連科目のうち1～2年次開講のものをすべて修得していることが望ましい。 教職課程を同時に履修している者は、博物館と学校との連携に係る学修の振り返りについて、教職履修カルテの記述に反映することが望ましい。
教科書	生涯学習社会の構築 / 佐々木正治（編著） / 福村出版 / ISBN978-4571101380
参考書	現代教育の理論と実践 / 曾我雅比呂・皿田琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会（編） / 芙蓉書房出版 / ISBN978-4829505519 その他、講義の際に適宜提示し、必要に応じて指示、解説等を行う。
連絡先	B2号館（旧13号館）3階皿田研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	広く人々の学習を支援するための公的資格の一つの取得をめざしていることを深く自覚し、高い意欲をもって学業に取り組むことが望ましい。 勤務を希望している地域の生涯学習・社会教育関連施策や、地域の博物館における学びの支援の事例を中心に、日ごろから新聞に目を通しておくこと。 専攻分野に関する学びの支援を中心に、幅広く読書を励行することが望ましい。 指導計画は受講状況により見直すことがある。講義形態を基本とするが、学習状況によってはアクティブラーニングを加味することがある。 指導計画は受講状況により変更することがある。講義形態を基本とするが、学習状況によってはアクティブラーニングを加味することがある。 連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 授業で課された提出物はすべて点検し、必要に応じて添削する。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。
試験実施	実施する

科目名	博物館経営論【月3水3】(FD03C210)
英文科目名	Museum Management
担当教員名	塚本博一* (つかもとひろいち*), 富加見泰彦* (ふかみやすひこ*)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。 (全教員)
2回	博物館の経営基盤(1) ミュージアムマネジメントとは を説明する。 (全教員)
3回	博物館の経営基盤(2) ミュージアムマネジメントとは を説明する。 (全教員)
4回	博物館の経営基盤(3) 行財政制度、財務を説明する。 (全教員)
5回	博物館の経営基盤(4) 施設・設備(ユニバーサル化を含む)を説明する。 (全教員)
6回	博物館の経営基盤(5) 組織と職員を説明する。 (全教員)
7回	博物館の経営(1) 使命と計画と評価 を説明する。 (全教員)
8回	博物館の経営(2) 使命と計画と評価 を説明する。 (全教員)
9回	博物館の経営(3) 博物館倫理(行動規範)、博物館の危機管理を説明する。 (全教員)
10回	博物館の経営(4) 利用者との関係(広報・マーケティング、ミュージアムショップ等)を説明する。 (全教員)
11回	博物館における連携(1) 市民参画(友の会、ボランティア、支援組織等)を説明する。 (全教員)
12回	博物館における連携(2) 博物館ネットワーク、他館との連携を説明する。 (全教員)
13回	博物館における連携(3) 他機関(行政・大学・類縁機関等)との連携を説明する。 (全教員)
14回	博物館における連携(4) 地域社会と博物館(地域の活性化、地域社会との連携)を説明する。 (全教員)
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館の経営に関する基礎的知識を獲得する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を塾覧しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
3回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
4回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
5回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
6回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
7回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
8回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
9回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
10回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
11回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
12回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
13回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
14回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネージメント）に関する基礎的能力を養う。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-5にもっとも強く関与）
達成目標	1) 博物館の経営基盤（ミュージアムマネージメントとは、行財政制度、財務、施設・設備（ユニバーサル化を含む）、組織と職員） 2) 博物館の経営（使命と計画と評価、博物館倫理（行動規範）、博物館の危機管理、利用者との関係（広報・マーケティング、ミュージアムショップ等）） 3) 博物館における連携（市民参画（友の会、ボランティア、支援組織等）、博物館ネットワーク、他館との連携、他機関（行政・大学・類縁機関等）との連携、地域社会と博物館（地域の活性化、地域社会との連携）） 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価（合格基準60	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 / 芙蓉書房出版 / ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事

	前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	文化史B【火2金2】(FD03G110)
英文科目名	Cultural History B
担当教員名	中村亜希子*(なかむらあきこ*),平野裕子*(ひらのゆうこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	理学部(16~),バイオ・応用化学科(16~),機械システム工学科(16~),電気電子システム学科(16~),情報工学科(16~),知能機械工学科(16~),生体医工学科(16~),建築学科(16~),生命医療工学科(16~),総合情報学部(16~),生物地球学部(16~),教育学部(16~),経営学部(16~)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 世界遺産条約と文化財保護法を説明する。 (全教員)
2回	文化遺産と自然遺産 日本(1)を説明する。 (全教員)
3回	文化遺産と自然遺産 日本(2)を説明する。 (全教員)
4回	文化遺産と自然遺産 日本(3)を説明する。 (全教員)
5回	文化遺産と自然遺産 東南アジア(1)を説明する。 (全教員)
6回	文化遺産と自然遺産 東南アジア(2)を説明する。 (全教員)
7回	文化遺産と自然遺産 東南アジア(3)を説明する。 (全教員)
8回	日本と東南アジアの人文的景観(まとめ)を説明する。 (全教員)
9回	無形遺産条約と文化財保護法を説明する。 (全教員)
10回	文化遺産と自然遺産 中国(1)を説明する。 (全教員)
11回	文化遺産と自然遺産 中国(2)を説明する。 (全教員)
12回	文化遺産と自然遺産 中国(3)を説明する。 (全教員)
13回	文化遺産と自然遺産 北東アジア(1)を説明する。 (全教員)
14回	文化遺産と自然遺産 北東アジア(2)を説明する。 (全教員)
15回	中国と北東アジアの人文的景観(まとめ)を説明する。 (全教員)

回数	準備学習

1回	世界遺産条約と文化財保護法に関する調べ学習をしておくこと（標準学習時間60分）。
2回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
3回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
4回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
5回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
6回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
7回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
8回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと（標準学習時間180分）。
9回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
10回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
11回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
12回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
13回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
14回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	<p>経済成長が進展するアジア。これらの国々では、グローバル化の中で、生活文化の多様性が失われ、そこで培われた地域の景観も失われつつある。とりわけ、経済成長をけん引する都市部において、本来の自然や伝統的建造物は、コンクリートやアスファルト等が多くを占める都市的景観に置き換わりつつある。次世代を担う若者のファッションやカルチャーは、テレビやインターネットを通じて単相化しつつある。そうした中で、本来の伝統的な人々の暮らしとそこにあった景観を見つめ直すことがきわめて重要になっている。</p> <p>本講義では、アジア各地の伝統的な生活、習慣、文化について、世界文化遺産、世界自然遺産、世界無形遺産等の紹介をつうじて、アジアの生活文化の多様性と日本文化の特質について理解を深めていく。</p> <p>（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針N-1にもっとも強く関与）</p>
達成目標	<p>1) 暮らしの中で培われた生活文化が多様性に満ちたものであることを理解する。</p> <p>2) 隣り合う中国、北東アジア、東南アジアとの比較を通じて、日本の文化的景観の特質を理解する。</p> <p>3) 生活文化とその景観の重要性を文化財保護の視点でどのように取り込まれているかを理解する。</p> <p>以上の項目について、理解を深めることを目標とする。</p>
キーワード	授業内容に記載。
成績評価（合格基準60	提出課題40%、2回の小テスト60%によって、成績を評価する。得点率60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	講義中にプリントを配付する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4階徳澤研究室。研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@utlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事

	前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館教育論 (FD03Q210)
英文科目名	Museum Education
担当教員名	徳澤啓一(とくさわけいいち)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。[全教員]
2回	博物館教育の意義と理念(1) / コミュニケーションとしての博物館教育(博物館教育の双方向性、博物館諸機能の教育的意義) [全教員]
3回	博物館教育の意義と理念(2) / 博物館教育の意義(生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等) [全教員]
4回	博物館教育の意義と理念(3) / 博物館教育の方針と評価 [全教員]
5回	博物館の利用と学び / 博物館の利用実態と利用者の博物館体験、博物館における学びの特性 [全教員]
6回	博物館教育の実際(1) / 博物館教育活動の手法(館内、館外)、博物館教育活動の企画と実施 [全教員]
7回	博物館教育の実際(2) / 博物館と学校教育(博物館と学習指導要領を含む) [全教員]
8回	総括 / 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館の教育に関する基礎的知識を獲得する [全教員]

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を熟覧しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-2にもっとも強く関与)
達成目標	1) 博物館教育の意義と理念(コミュニケーションとしての博物館教育(博物館教育の双方向性、博物館諸機能の教育的意義)、博物館教育の意義(生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等)、博物館教育の方針と評価) 2) 博物館の利用と学び(博物館の利用実態と利用者の博物館体験、博物館における学びの特性) 3) 博物館教育の実際(博物館教育活動の手法(館内、館外)、博物館教育活動の企画と実施、博物館と学校教育(博物館と学習指導要領を含む))  以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価(合格基準60)	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、

	本講義の合否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 / 芙蓉書房出版 / ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	文化史A (FD03Z110)
英文科目名	Cultural History A
担当教員名	庄田慎矢* (しょうだしんや*)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部(16~), バイオ・応用化学科(16~), 機械システム工学科(16~), 電気電子システム学科(16~), 情報工学科(16~), 知能機械工学科(16~), 生体医工学科(16~), 建築学科(16~), 生命医療工学科(16~), 総合情報学部(16~), 生物地球学部(16~), 教育学部(16~), 経営学部(16~)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス 食の文化と歴史へ招待する。
2回	世界の食文化の多様性 所変われば食変わることを講義する。
3回	米食の歴史 中国の稲作起源と日本への伝来について講義する。
4回	雑穀食の歴史 アワ、キビ、ヒエ食の歴史について講義する。
5回	パン食の歴史 コムギの起源から日本のパン食文化までについて講義する。
6回	木の実・根茎食の歴史 縄文時代の木の実食から現代のナッツ食までについて講義する。
7回	肉食・魚食の歴史 先史時代からの狩猟・漁撈の歴史について講義する。
8回	ミルクの歴史 動物の家畜化と乳製品の歴史について講義する。
9回	塩とスパイスの歴史 日本先史時代の製塩や世界のスパイスの歴史について講義する。
10回	お酒の歴史 古代エジプトのビール・ワインから江戸の日本酒までについて講義する。
11回	嗜好品の歴史 お茶とコーヒー、ココアの歴史について講義する。
12回	料理法の歴史 旧石器時代の炉跡から現代の炊飯器、システムキッチンまでについて講義する。
13回	食事法の歴史 手づかみから箸、ナイフ、スプーン、フォークの利用について講義する。
14回	お隣の国、韓国の食文化の歴史について講義する。
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、食文化に関する基礎的知識を獲得する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	書籍やWebを用いて食文化の歴史に関して調べておくこと(標準学習時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いて食文化の多様性に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いて米食の歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いて雑穀食の歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いてパン食の歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いてナッツ食の歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いて肉食・魚食の歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いてミルクの歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
9回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いて塩とスパイスの歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
10回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いてお酒の歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
11回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いて嗜好品の歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
12回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いて料理法の歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
13回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いて食事法の歴史に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
14回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、書籍やWebを用いて韓国の食文化に関して調べておくこと(標準学習時間120分)。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと

	と(標準学習時間180分)。
講義目的	どんな人も、何も食べずには生きていくことはできない。現代社会に生きる私たちの身の周りには様々な食べ物があふれているが、これらはなぜ、どうやって私たちの食卓に上るようになったのであろうか?この講義では、「食」という身近なテーマを手掛かりに、現在の私たちの生活と人類の歴史との密接な関わりを具体的に学ぶことを通し、各自が現代における食の問題を広い視点から考える力をつけることを目指す。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針N-2にもっとも強く関与)
達成目標	この講義では、先史時代から現代にいたるまでの様々な資料を用いて、人類がどのように「食」と向き合ってきたのかを、様々な角度から見ていく。扱う資料は、石ころであったり焼き物であったり、木や金属でできたものであったり、古い文書であったり、絵画や写真であったり、あるいは目で見ることのできない化合物であったりと様々である。聴講者には、食に対する幅広い関心と、現在と過去を積極的に関連付けて理解しようとする姿勢が求められる。
キーワード	食文化、考古学、歴史
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)によって、成績を評価する。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	講義中、適宜、指示する。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	D 2号館 4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	博物館資料論 (FD03Z120)
英文科目名	Museum Object
担当教員名	富樫雅彦* (とがしまさひこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。
2回	博物館における調査研究活動(1) 調査研究活動の意義と内容(博物館資料に関する研究、資料保存に関する研究博物館に関する研究等)を説明する。
3回	博物館における調査研究活動(2) 調査研究活動の意義と内容(調査研究成果の還元)を説明する。
4回	博物館資料の概念(1) 資料の意義を説明する。
5回	博物館資料の概念(2) 資料の種類を説明する。
6回	博物館資料の概念(3) 資料の種類を説明する。
7回	博物館資料の概念(4) 資料化の過程を説明する。
8回	博物館資料の収集・整理・活用(1) 収集理念と方法を説明する。
9回	博物館資料の収集・整理・活用(2) 収集理念と方法を説明する。
10回	博物館資料の収集・整理・活用(3) 情報の記録を説明する。
11回	博物館資料の収集・整理・活用(4) 収集の倫理・法規を説明する。
12回	博物館資料の収集・整理・活用(5) 受入手続き・登録等を説明する。
13回	博物館資料の収集・整理・活用(6) 資料の分類・整理(目録作成を含む)を説明する。
14回	博物館資料の収集・整理・活用(7) 資料公開の理念と方法(アクセス権、特別利用等を含む)を説明する。
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館の資料に関する基礎的知識を獲得する。

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を熟覧しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
9回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
10回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
11回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
12回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
13回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
14回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。

15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと(標準学習時間180分)。
講義目的	博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-4にもっとも強く関与)
達成目標	1) 博物館における調査研究活動[調査研究活動の意義と内容(博物館資料に関する研究、資料保存に関する研究、博物館に関する研究等)、調査研究成果の還元] 2) 博物館資料の概念[資料の意義、資料の種類、資料化の過程] 3) 博物館資料の収集・整理・活用[収集理念と方法(情報の記録、収集の倫理・法規、受入手続き・登録等)、資料の分類・整理(目録作成を含む)、資料公開の理念と方法(アクセス権、特別利用等を含む)] 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価(合格基準60)	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学/全国大学博物館学講座協議会西日本部会編/芙蓉書房出版/ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館情報論 (FD03Z140)
英文科目名	Museum Intelligence
担当教員名	下湯直樹* (しもゆなおき*)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。
2回	博物館における情報・メディアの意義(1) 情報の意義(視聴覚メディアの理論と歴史を含む)を説明する。
3回	博物館における情報・メディアの意義(2) メディアとしての博物館(視聴覚メディアの発展と博物館)を説明する。
4回	博物館における情報・メディアの意義(3) ICT社会の中の博物館(情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等)を説明する。
5回	博物館における情報・メディアの意義(4) 情報教育の意義と重要性を説明する。
6回	博物館情報・メディアの理論(1) 博物館活動の情報化(沿革、調査研究活動、展示・教育活動等)を説明する。
7回	博物館情報・メディアの理論(2) 資料のドキュメンテーションとデータベース化を説明する。
8回	博物館情報・メディアの理論(3) デジタルアーカイブの現状と課題を説明する。
9回	博物館情報・メディアの理論(4) 映像理論、博物館メディアの役割と学習活用を説明する。
10回	博物館における情報発信(1) 情報管理と情報公開を説明する。
11回	博物館における情報発信(2) 情報機器の活用(情報端末、新たなメディア経験等)を説明する。
12回	博物館における情報発信(3) インターネットの活用を説明する。
13回	博物館と知的財産(1) 知的財産権(著作権等)を説明する。
14回	博物館と知的財産(2) 個人情報(肖像権等)、権利処理の方法を説明する。
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館の情報に関する基礎的知識を獲得する。

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を熟覧しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
9回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
10回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
11回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
12回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
13回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。

14回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-6にもっとも強く関与）
達成目標	1) 博物館における情報・メディアの意義/情報の意義(視聴覚メディアの理論と歴史を含む)、メディアとしての博物館(視聴覚メディアの発展と博物館)、ICT社会の中の博物館(情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等)、情報教育の意義と重要性 2) 博物館情報・メディアの理論/博物館活動の情報化(沿革、調査研究活動、展示・教育活動等)、資料のドキュメンテーションとデータベース化、デジタルアーカイブの現状と課題、映像理論、博物館メディアの役割と学習活用 3) 博物館における情報発信/情報管理と情報公開、情報機器の活用(情報端末、新たなメディア経験等)、インターネットの活用 4) 博物館と知的財産/知的財産権(著作権等)、個人情報(肖像権等)、権利処理の方法 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価（合格基準60	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学/全国大学博物館学講座協議会西日本部会編/芙蓉書房出版/ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館教育論 (FD03Z210)
英文科目名	Museum Education
担当教員名	徳澤啓一(とくさわけいいち)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。[全教員]
2回	博物館教育の意義と理念(1) / コミュニケーションとしての博物館教育(博物館教育の双方向性、博物館諸機能の教育的意義) [全教員]
3回	博物館教育の意義と理念(2) / 博物館教育の意義(生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等) [全教員]
4回	博物館教育の意義と理念(3) / 博物館教育の方針と評価 [全教員]
5回	博物館の利用と学び / 博物館の利用実態と利用者の博物館体験、博物館における学びの特性 [全教員]
6回	博物館教育の実際(1) / 博物館教育活動の手法(館内、館外)、博物館教育活動の企画と実施 [全教員]
7回	博物館教育の実際(2) / 博物館と学校教育(博物館と学習指導要領を含む) [全教員]
8回	総括 / 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館の教育に関する基礎的知識を獲得する [全教員]

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を熟覧しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-2にもっとも強く関与)
達成目標	1) 博物館教育の意義と理念(コミュニケーションとしての博物館教育(博物館教育の双方向性、博物館諸機能の教育的意義)、博物館教育の意義(生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等)、博物館教育の方針と評価) 2) 博物館の利用と学び(博物館の利用実態と利用者の博物館体験、博物館における学びの特性) 3) 博物館教育の実際(博物館教育活動の手法(館内、館外)、博物館教育活動の企画と実施、博物館と学校教育(博物館と学習指導要領を含む))  以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価(合格基準60)	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、

	本講義の合否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 / 芙蓉書房出版 / ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館展示論 (FD03Z310)
英文科目名	Museum Exhibition
担当教員名	青木豊* (あおきゆたか*)
対象学年	3年
開講学期	秋1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部(～16), バイオ・応用化学科(～16), 機械システム工学科(～16), 電気電子システム学科(～16), 情報工学科(～16), 知能機械工学科(～16), 生体医工学科(～16), 建築学科(～16), 生命医療工学科(～16), 総合情報学部(～16), 生物地球学部(～16), 教育学部(～16), 経営学部(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。[全教員]
2回	博物館展示の意義(1) / コミュニケーションとしての展示 [全教員]
3回	博物館展示の意義(2) / 調査研究の成果の提示 [全教員]
4回	博物館展示の意義(3) / 展示と展示論の歴史 [全教員]
5回	博物館展示の意義(4) / 展示と展示論の歴史 [全教員]
6回	博物館展示の意義(5) / 展示の政治性と社会性 [全教員]
7回	博物館展示の意義(6) / 展示の政治性と社会性 [全教員]
8回	博物館展示の意義(7) / 展示の諸形態 [全教員]
9回	博物館展示の意義(8) / 展示の製作(企画、デザイン、技術、施工等) [全教員]
10回	博物館展示の意義(9) / 関係者との協力(他館、所蔵者、専門業者等) [全教員]
11回	博物館展示の意義(10) / 展示の評価と改善・更新
12回	展示の解説活動(1) / 解説文・解説パネル
13回	展示の解説活動(2) / 人による解説、機器による解説
14回	展示の解説活動(3) / 展示解説書(展示図録、パンフレット等)
15回	総括 / 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館の展示に関する基礎的知識を獲得する [全教員]

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を塾覧しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
9回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
10回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
11回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
12回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
13回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
14回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-7にもっとも強く関与）
達成目標	1) 博物館展示の意義 コミュニケーションとしての展示、調査研究の成果の提示、展示と展示論の歴史、展示の政治性と社会性 2) 博物館展示の実際、展示の諸形態、展示の製作（企画、デザイン、技術、施工等）、関係者との協力（他館、所蔵者、専門業者等）、展示の評価と改善・更新 3) 展示の解説活動 解説文・解説パネル、人による解説、機器による解説、展示解説書（展示図録、パンフレット等） 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価（合格基準60	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	集客力を高める 博物館学展示論 / 雄山閣 / 青木豊著
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 階徳澤研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	博物館情報論【月3水3】(FD04C110)
英文科目名	Museum Intelligence
担当教員名	高橋亮雄(たかはしあきお)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の進め方を説明する。
2回	博物館における情報・メディアの意義(1) 情報の意義(視聴覚メディアの理論と歴史を含む)を説明する。
3回	博物館における情報・メディアの意義(2) メディアとしての博物館(視聴覚メディアの発展と博物館)を説明する。
4回	博物館における情報・メディアの意義(3) ICT社会の中の博物館(情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等)を説明する。
5回	博物館における情報・メディアの意義(4) 情報教育の意義と重要性を説明する。
6回	博物館情報・メディアの理論(1) 博物館活動の情報化(沿革、調査研究活動、展示・教育活動等)を説明する。
7回	博物館情報・メディアの理論(2) 資料のドキュメンテーションとデータベース化を説明する。
8回	博物館情報・メディアの理論(3) デジタルアーカイブの現状と課題を説明する。
9回	博物館情報・メディアの理論(4) 映像理論、博物館メディアの役割と学習活用を説明する。
10回	博物館における情報発信(1) 情報管理と情報公開を説明する。
11回	博物館における情報発信(2) 情報機器の活用(情報端末、新たなメディア経験等)を説明する。
12回	博物館における情報発信(3) インターネットの活用を説明する。
13回	博物館と知的財産(1) 知的財産権(著作権等)を説明する。
14回	博物館と知的財産(2) 個人情報(肖像権等)、権利処理の方法を説明する。
15回	総括 本講義の学習内容を復習しつつ、博物館の情報に関する基礎的知識を獲得する。

回数	準備学習
1回	シラバス及び『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』の該当部分を熟覧しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
3回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
4回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
5回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
6回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
7回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
8回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
9回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
10回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
11回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
12回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。
13回	前回の講義内容を復習するとともに(標準学習時間60分)、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと(標準学習時間120分)。

14回	前回の講義内容を復習するとともに（標準学習時間60分）、今回の講義内容に該当する教科書の単元を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
15回	前回の講義内容を復習するとともに、これまでの講義内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針L-6にもっとも強く関与）
達成目標	1) 博物館における情報・メディアの意義/情報の意義(視聴覚メディアの理論と歴史を含む)、メディアとしての博物館(視聴覚メディアの発展と博物館)、ICT社会の中の博物館(情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等)、情報教育の意義と重要性 2) 博物館情報・メディアの理論 / 博物館活動の情報化(沿革、調査研究活動、展示・教育活動等)、資料のドキュメンテーションとデータベース化、デジタルアーカイブの現状と課題、映像理論、博物館メディアの役割と学習活用 3) 博物館における情報発信/情報管理と情報公開、情報機器の活用(情報端末、新たなメディア経験等)、インターネットの活用 4) 博物館と知的財産/知的財産権(著作権等)、個人情報(肖像権等)、権利処理の方法 以上の項目について、理解を深めることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載。
成績評価（合格基準60	提出課題 40%、2回の小テスト 60%によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。なお、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員所見を重視することになる。
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
教科書	新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 / 芙蓉書房出版 / ISBN9784829505519
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	B2号館1階高橋研究室。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
注意・備考	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、博物館学芸員関連科目の中の適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	自然史B【火2金2】(FD04G110)
英文科目名	Natural History B
担当教員名	高橋亮雄(たかはしあきお)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	理学部(16~), バイオ・応用化学科(16~), 機械システム工学科(16~), 電気電子システム学科(16~), 情報工学科(16~), 知能機械工学科(16~), 生体医工学科(16~), 建築学科(16~), 生命医療工学科(16~), 総合情報学部(16~), 生物地球学部(16~), 教育学部(16~), 経営学部(16~)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：本講義の概要と目標を説明する。
2回	生物の分類と“魚類”と呼ばれる動物について概説する。
3回	無顎類：ヌタウナギとヤツメウナギとはどういった“魚”なのか、解説する。
4回	鎧で覆われた“魚”の進化史、多様性および特徴について解説する。
5回	軟骨魚類と棘魚類の進化史、多様性および特徴について解説する。
6回	肉鱗類1 - シーラカンス類の進化史、多様性および特徴について解説する。
7回	肉鱗類2 - 肺魚類の進化史、多様性および特徴について解説する。
8回	“魚”から四肢動物への進化がどのようにおこったのか、最近発見された“ミッシング・リンク”も含め解説する。
9回	初期の四肢動物(両生類)はどのようなものであったのか、紹介する。
10回	両生類の進化と多様性について、解説する。
11回	爬虫類の進化と多様性について、解説する。
12回	岡山で見られる両生・爬虫類について紹介する。
13回	哺乳類の初期進化について概説する。
14回	哺乳類の進化と多様化について、解説する。
15回	人類の進化について概説する。
16回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】このシラバスをよく読み、授業内容の確認をするとともに高等学校の教科書等の生物に関する項目について読んでおくこと(標準学習時間60分)
2回	【予習】動物の分類体系における門レベルの代表的な生物について、参考書やインターネット等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】魚類の体の外部形態に関する基本構造について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】無顎類と呼ばれる現生動物にはどのような分類群が含まれているか配付プリントをもとに予習すること(標準学習時間60分)。 【復習】原始的な無顎類の体の構造について復習すること(標準学習時間120分)。
4回	【予習】一般に甲冑魚と呼ばれる動物の形態的特徴について、配布したプリントをもとに予習すること(標準学習時間60分)。 【復習】無顎類の系統と多様性について復習すること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】板鰓類と全頭類の体のつくりについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】軟骨魚類の系統関係について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】現生シーラカンス類の分布と生態について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】シーラカンス類の進化史について、講義内容をもとに復習しておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】肺魚類の分布と生態について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】肺魚類とシーラカンス類の形態的な違いについて、配付資料をもとに復習しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】陸生脊椎動物に近い「魚」の形態的な特徴について、配付プリントをもとに考察すること(標準学習時間60分)。 【復習】ティクターイクとはどんな魚であったのか、振り返り理解を深めておくこと(標準学習時間120分)。
9回	【予習】初期の両生類に関する配付プリントを読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】迷歯両生類についての講義内容を振り返り、理解を深めておくこと(標準学習時間120分)

	分)。
10回	【予習】現生両生類にはどういったものがあるのか、参考書等で確認すること(標準学習時間60分)。 【復習】現生両生類の進化史について復習すること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】代表的な現生爬虫類について、書籍等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】爬虫類が側系統群である理由について、理解を深めておくこと(標準学習時間120分)。
12回	【予習】身近な両生・爬虫類について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】国内の両生類や爬虫類の分布について復習すること(標準学習時間120分)。
13回	【予習】配布プリントをもとに、単弓類および哺乳類の初期進化について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】中生代から古第三紀にかけての哺乳類の進化について復習すること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】代表的な哺乳類について書籍等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】新第三紀以降の哺乳類の進化について復習すること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】人類を特徴づける形質にはどういったものがあるか、配付プリントをもとに予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】人類の進化について、配付プリントをもとに復習しておくこと。また、これまでに勉強してきた陸生脊椎動物の進化のおおまかな流れを、ノートとプリントをもとにふりかえり、理解を深めておくこと(標準学習時間120分)。
16回	【予習】これまでの学習で理解が不十分であった点について、配付プリントやノートをもとに理解を深めておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】理解が不十分であった点について講義ノートや配布プリント等をもとに復習すること(標準学習時間120分)。

講義目的	日本の地史について理解を深めるために、地質、層序、化石および現生生物の進化や動物地理などを中心に概説し、自然史に関する基礎的な知識の修得をめざす。なお、本科目は博物館学芸員関連科目のひとつに位置づけられており、3年時に博物館実習を履修するためには当該科目の単位修得が不可欠である。(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針N-4にもっとも強く関与)
達成目標	1) 生物に関する基礎知識を習得している(N-4)、2) 脊椎動物の進化の概要について理解している(N-3および4)、3) 生物の分布と多様化について説明できる(N-3)、4) 自然史博物館で展示されている古生物学および地史学系の展示を適切に理解し、説明できる(N-4)。 2) 自然環境と持続可能な発展について説明できる(N-3および4)。
キーワード	脊椎動物、化石、進化、地史、動物地理
成績評価(合格基準60)	提出課題(10%)と最終評価試験(90%)により評価する。
関連科目	自然史A、博物館実習
教科書	講義でプリントを配付する。
参考書	Vertebrate Palaeontology. Fourth Edition / Benton M.J. / 2015. Vertebrates - Comparative Anatomy, Function, Evolution. Fourth Edition / Kardong K.V. / 2006 / Blackwell Publishing. パイオディバースィシリーズ7 脊椎動物の多様性と系統 / 松井正文編 / 2006 / 裳華房. シリーズ進化学1マクロ進化と全生物の系統分類 / 佐藤ほか編 / 2004 / 岩波書店. 地球と生命の進化学 新・自然史科学I / 沢田健ほか / 2008 / 北海道大学出版会.
連絡先	研究室(B2号館1階)
注意・備考	1) 学習準備時間数が示してあるが、他の履修科目等への時間配分も勘案して心身の健康を害することのないように、適宜、各自調整すること。 2) この講義は本学の博物館学芸員関連科目のひとつに位置付けられるため、講義の一環として館園見学を実施することがある。 3) 講義資料は講義中に適宜、配布する。なお、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。 4) 講義中の録音/録画/撮影および着帽は原則として認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。 5) 館園見学を実施した場合、レポートは博物館に関する課題を提示する。提出された課題について

	て、講義中に全体の概要について説明し、博物館実習履修時に受け入れ先の検討を行う際の資料として活用してもらおう。
試験実施	実施する

科目名	博物館実習 (FD06Z310)
英文科目名	Museum Work Training I
担当教員名	徳澤啓一(とくさわけいいち), 高橋亮雄(たかはしあきお)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	事前の指導(1) 館園実習について解説する。 (全教員)
2回	事前の指導(2) 実習する館園について解説する。 (全教員)
3回	事前の指導(3) 館務について解説する。 (全教員)
4回	事前の指導(4) 博物館利用者の接遇について解説する。 (全教員)
5回	事前の指導(5) 館園見学について解説する。 (全教員)
6回	事前の指導(6) 見学する館園について解説する。 (全教員)
7回	館園見学(1) 館園Aについて解説する。 (全教員)
8回	館園見学(2) 館園Aについて解説する。 (全教員)
9回	館園見学(3) 館園Bについて解説する。 (全教員)
10回	館園見学(4) 館園Bについて解説する。 (全教員)
11回	館園見学(5) 館園Cについて解説する。 (全教員)
12回	館園見学(6) 館園Cについて解説する。 (全教員)
13回	館園見学(7) 館園Dについて解説する。 (全教員)
14回	館園見学(8) 館園Dについて解説する。 (全教員)
15回	総括: 本講義の学習内容を復習しつつ、「博物館実習」の準備学習を実施する。(全教員) (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、授業内容を確認しておくこと(標準学習時間60分)。

2回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、事前配付資料を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
3回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、事前配付資料を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
4回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、事前配付資料を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
5回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、事前配付資料を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
6回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、事前配付資料を読んでおくこと（標準学習時間120分）。
7回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、見学館園のホームページを検索し、当該館園の概要を閲覧しておくこと（標準学習時間120分）。
8回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、見学館園のホームページを検索し、当該館園の概要を閲覧しておくこと（標準学習時間120分）。
9回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、見学館園のホームページを検索し、当該館園の概要を閲覧しておくこと（標準学習時間120分）。
10回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、見学館園のホームページを検索し、当該館園の概要を閲覧しておくこと（標準学習時間120分）。
11回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、見学館園のホームページを検索し、当該館園の概要を閲覧しておくこと（標準学習時間120分）。
12回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、見学館園のホームページを検索し、当該館園の概要を閲覧しておくこと（標準学習時間120分）。
13回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、見学館園のホームページを検索し、当該館園の概要を閲覧しておくこと（標準学習時間120分）。
14回	前回の実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、見学館園のホームページを検索し、当該館園の概要を閲覧しておくこと（標準学習時間120分）。
15回	前回の実習内容を復習するとともに、これまでの実習内容を振り返り、疑問点等を整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通し、多様な館種の実態や学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Mにもっとも強く関与）
達成目標	1．学内実習〔見学実習（多様な館種の実態理解）、実務実習（資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得）、事前・事後指導（実習全体の指導、館園実習に関する指導）〕 2．館園実習（博物館における実務体験） 以上についての講義を行い、その理解を深める。
キーワード	授業内容に記載
成績評価（合格基準60	「館園実習簿」の記載（50%）及びレポート（50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、博物館学芸員課程の最終段階である「博物館実習」において、履修生は、外部の博物館で館園実習を行うことになる。当然のことながら、館園実習では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、本講義の可否に関しては、平素の受講態度に関する教員及び「館園実習」担当者の所見を重視することになる。
関連科目	博物館学芸員関連科目
教科書	新時代の博物館学 / 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 / 芙蓉書房出版 / ISBN9784829505519
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（D2号館4階） 高橋亮雄研究室（B2号館1階） curator_ous@outlook.jp
注意・備考	止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。また、講義時、参考資料を配付することがあるが、欠席者への事後配付は行わないので注意すること。
試験実施	実施しない